

平成 28 年度 学校自己評価報告書

平成29年6月1日



I. 基本方針

建学の精神に則り、モラロジーに基づく道德教育を根幹に、教科指導・進学指導の充実と部活動の強化を図るとともに、中長期計画に基づく諸施策を以下のように実施する。

II. 重点目標

- (1) 生徒数の安定確保と収支構造の改善
 - 1) 戦略的な広報活動による募集活動を展開し、全国から寮生の確保に努める。
 - 2) 近隣中学校や塾への広報活動を積極的に展開し、特に高校からの入学者を増やす。
 - 3) 生徒数の増加による納付金収入の増額と人件費の削減を図り教育活動収支の改善を目指す。
- (2) グローバル人材の育成
 - 1) 国際交流センターを校舎内に設置して、グローバル教育の推進を図る。
 - 2) 海外研修や留学生との交流などを通じた異文化体験学習を推進する。
 - 3) 英語教育の充実と、外部検定試験などを通じた英語力向上を推進する。
- (3) 創立者生誕 150 年記念事業の実施
 - 1) 生徒対象の創立者生誕 150 年記念講演会を 6 月に実施する。
 - 2) 創立者の生涯についての展示ブースを校舎内に設置・展示する。
- (4) 新コース制度の確立と教育プログラムの見直し
 - 1) 新学習プログラム「RISE」を通じて、生徒の総合的・多面的な能力の育成を図る。
 - 2) 高校新設の進学コースと特進コースの学習指導プログラムを確立する。
 - 3) 新しい大学入試制度に対応したカリキュラムや授業内容を検討する。
- (5) 部活動の環境整備と強化
 - 1) 部活動全員加入を維持し、生徒全員が生き生きと活動できる環境の整備を図る。
 - 2) 強化指定部を中心に、全国大会出場を果たせる能力の高い生徒を集める。
 - 3) 外部委託コーチを登用して、生徒の技術向上を支援する。
- (6) 教職員の資質向上と勤務環境の改善
 - 1) モラロジー研究所と連携して、教職員を対象にモラロジー講座の受講を推進する。
 - 2) 次世代を担う教職員を確保し、資質育成に努める。
 - 3) 教職員の時間外勤務を削減できるように、業務内容を見直し勤務負担の適正化を図る。

III. 中期計画の実行に関する事項

- (1) 生徒の安定的確保と教育活動収支の改善
 - 1) 募集目標数の達成

平成 21 年度の 779 人をピークに 3 年間でおよそ 100 人減となった生徒数は、平成 25 年度に減少が止まり、27 年度は対 25 年度比で 30 人増となった。中期計画最終年の平成 29 年 4 月には募集目標数の 765 人（中学生 225 人、高校生 540 人）以上の生徒数を確保し、教育活動収支の一層の改善に努める。
 - 2) 広報力の強化

平成 26 年度に委託をした三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社による調査と提案を参考にして、引き続き効率的なマーケティング・市場開拓を行っていく。特に寮生の募集については、麗澤会員への広報や、公益財団法人モラロジー研究所の協力の下で、同研究所維持員・地方責任者への情報発信にも努めていく。

(2) 教育の充実

1) 寮の収容定員の充足

平成 27 年度の寮生数は 393 人（中学生 101 人、高校生 292 人）であったが、目標である 430 人（中学生 110 人、高校生 320 人）の確保に向けて全国的な広報活動を行う。特に兄弟姉妹・卒業生対象の寮費減免制度なども活用して寮生の確保に努め、麗澤教育の充実を図る。

2) 寮指導体制の改革

寮を担当するチューターの勤務体制の改善を図り、適正な勤務時間の確立に向けて引き続き検討を重ねる。また、本校の教育理念を体現した指導方法を整えるために、指導マニュアルの作成を行う。

3) 中高一貫体制の構築と進学実績の向上

学力の向上と進学実績の向上を目指して中高一貫教育体制（知徳コース）を整え、英語や数学などの教科の先取り学習と習熟度学習を展開する。また、高校入学生には「特進コース」と「進学コース」を設置して、学習指導の一層の充実を目指す。

4) グローバル人材の育成

ホームルームや総合学習の時間などを活用して、日本人としての誇りと自信を持ったグローバルな思考のできる人材の育成に努める。また、3 年生の海外研修旅行や 5 年生の台湾修学旅行などの海外交流プログラムの充実と改善を推進する。

5) 特色ある学校行事の創設

学校行事や諸活動の見直しを行い、建学の精神と愛校心の涵養、道徳教育実践の機会となるようなプログラムの構築に努める。

IV. 重点目標と評価

平成 28 年度の主な事業計画については、特に大きな問題もなく順調に遂行することができた。また、大学進学実績や部活動や学校行事等においても、例年以上の成果を出すことができた。

ただし、生徒数の確保という面においては、学校の立地する地域の急激な少子化の影響など様々な要因が重なり、この数年間のように生徒数を漸増させることが出来なかったため、今後は広報活動の更なる見直しも行っていきたい。

所管部・担当	事業計画	評価
校長・教頭 事務部長	1. 生徒数の安定確保と収支構造の改善 (1) 戦略的な広報活動による募集活動を展開し、全国から寮生の確保に努める。 (2) 近隣中学校や塾への広報活動を積極的に展開し、特に高校からの入学者を増やす。 (3) 生徒数の増加による納付金収入の増額と人件費の削減を図り、教育活動収支の改善を目指す。	1) 広報部を設置して 4 年目となり、広報活動の手法について改善が見られたが、全国的な展開については不十分であった。 2) 戦略的な訪問活動を展開することで、大きな効果を発揮し、入学者数の増につながった。 3) 生徒数の増加については、入学者数の増加を通じて学校納付金収入の増額を図ることができたが、減価償却費を含む支出の増大により目標とすべき収支改善には至らなかった。
校長・教頭 事務部長	2. グローバル人材の育成 (1) 国際交流センターを校舎内に設置して、グローバル教育の推進を図る。 (2) 海外研修や留学生との交流などを通じた	1) 8 月に国際交流室を設置し、グローバル教育推進のための拠点をつくることができた。 2) 5 年生の台湾修学旅行は 3 年目を迎え、3 年生のオーストラリア修学旅行を平成 29 年度より実施のための計画を検討し、異文化体験を

	<p>異文化体験学習を推進する。</p> <p>(3) 英語教育の充実と、外部検定試験などを通じた英語力向上を推進する。</p>	<p>促進するための環境を整備することができた。</p> <p>3) 本校を英語検定試験の会場として活用してもらうこととし、検定試験のための質問会を特別に実施し、受験者数・合格者数も飛躍的に増加した。</p>
<p>校長・教頭 事務部長</p>	<p>3. 創立者生誕 150 年記念事業の実施</p> <p>(1) 生徒対象の創立者生誕 150 年記念講演会を 6 月に実施する。</p> <p>(2) 創立者の生涯についての展示ブースを校舎内に設置・展示する。</p>	<p>1) 生徒を対象とした創立者生誕 150 年記念講演会（白駒妃登美講師）を 6 月に実施し、創立者及び日本の偉人について学ぶことができた。</p> <p>2) 創立者の生涯についての展示ブースを校舎内に設置・展示し、生徒及び保護者に創立者の偉業を再認識してもらうことができた。</p>
<p>校長・教頭 事務部長</p>	<p>4. 新コース制度の確立と教育プログラムの見直し</p> <p>(1) 新学習プログラム「RISE」を通じて、生徒の総合的・多面的な能力の育成を図る。</p> <p>(2) 高校新設の進学コースと特進コースの学習指導プログラムを確立する。</p> <p>(3) 新しい大学入試制度に対応したカリキュラムや授業内容を検討する。</p>	<p>1) 新学習プログラム「RISE」の学習体制が確立され、目標とする能力の育成基盤を整備することができた。</p> <p>2) 特進コース・進学コースの新たな学習指導プログラム・評価制度を確立させることができ、本格的に始動する平成 29 年度に向けた、体制を整備することができた。</p>
<p>校長・教頭 事務部長</p>	<p>5. 部活動の環境整備と強化</p> <p>(1) 部活動全員加入を維持し、生徒全員が生き生きと活動できる環境の整備を図る。</p> <p>(2) 強化指定部を中心に、全国大会出場を果たせる能力の高い生徒を集める。</p> <p>(3) 外部委託コーチを登用して、生徒の技術向上を支援する。</p>	<p>1) 生徒・保護者からの多様なニーズに応えるため、新たに高校軟式野球部を発足させた。</p> <p>2) 今年度は、剣道部・テニス部に加え、硬式野球部が東海大会に初出場する等、陸上部・水泳部・ゴルフ部等で顕著な成績を収めることができた。</p> <p>3) 今後、さらに外部委託コーチを増員し、生徒の技量向上と活動環境の改善を支援したい。</p>
<p>校長・教頭 事務部長</p>	<p>6. 教職員の資質向上と勤務環境の改善</p> <p>(1) モラロジー研究所と連携して、教職員を対象にモラロジー講座の受講を推進する。</p> <p>(2) 次世代を担う教職員を確保し、資質育成に努める。</p> <p>(3) 教職員の時間外勤務を削減できるように、業務内容を見直し勤務負担の適正化を図る。</p>	<p>1) モラロジー講座の受講を推進し、新採用教員を含む数名が受講し、建学の精神に対する理解が深まるとともに生徒指導に生かされた。</p> <p>2) 管理職教員への権限委譲を促進するとともに、会議の合理化と統合を進め、教員の校務負担の軽減を図った。また、部活動の週 1 回の休日取得体制を周知し、教員の休日確保に努めた。</p>

V. 主な事業計画と評価

所管部	事業計画	評価
教科指導部	(1) 大学入試や実力試験の成果が上がるよう、研究授業や公開授業などを通して教授能力の向上を目指す。 (2) 各教科で新しい大学入試制度を見据えた授業内容を検討する。 (3) コース制導入に伴い習熟度に応じた授業の在り方についても検証し、改善を加え成果を出していく。	1) 大学入試や実力試験の成果が上がるよう、教授能力の向上を意識した授業展開が実施できた。学期中、長期休暇を含めて生徒に課す宿題や課題を通して自習能力の一層の向上を図り、大学入試や実力テストで成果を出すことができた。 2) 公開授業と研究授業を通して、電子黒板やタブレットを活用した近未来の授業展開の研究や、実力のつく授業づくりに各教科で積極的な研修に努めた。また、コース別授業の在り方と定期テストについて、進学コース・特進コースの統一テスト問題と、特進コースに対し追加問題を課すなどして工夫し、コースごとの評価を適正に導き出すことができた。中学では上位層の先取りを意識して、高校分野に踏み込んだ授業を展開した。
担任部	(1) 道徳教育と進路指導の2本柱を中心に、さらに時代の要請を受けて公民教育を盛り込んだホームルーム年間計画を学年で主体的に計画し、各指導部の助力を受けながら、生徒の向上心と学習意欲を育てるホームルーム活動を推進する。 (2) 生徒の状況や心情的確な把握と迅速な対応を心がけるために、デイリーライフの活用(中学校)、面接週間やクラス通信の充実、週報を活用した生徒指導連絡会での報告の徹底とチューター等との連携の強化を図る。また、学年主任のリーダーシップの下、各学年担当者会を開催して進路指導・生徒指導の情報収集と発信・共有に努める。	1) 学年主任会の会議の前半に1~3年の学年代表に参加してもらうことにより、ホームルームの計画や運営に関して確認・調整がスムーズにできるようになった。一方で、RISEやコース制発足に伴い、特に1~3年における担任の業務の負担が重くなっており、今後ますます業務の精選や統合が課題となると思われる。 2) 生徒指導連絡会が、多岐にわたる情報交換や意見集約・方針確認の場として充実し、また全体としてクラス担任による指導が質・量ともに厚くなり、生徒と学校との信頼関係が強化されている。結果として、特別な事情によるもの以外の転退学はほとんどなくなった。教科担当者会もきちんと行われるようになり、主体的な学年運営の姿勢が定着してきたので、今後はコースごとの担当者会などの充実を図っていきたい。
チューター部	(1) モラロジーに基づく寮教育の推進のため、指導マニュアルを作成し、全チューターが共通指導に努める。 (2) 生徒用の『寮生活のしおり』を作成し、モラロジー教育の浸透を図る。 (3) 教職員による寮生対象の夜間学習を推進する。 (4) 高校女子寮生との情報交換を密にしなが、寮の個室化に伴う学習体制や環境整備	1) 毎朝チューター間で情報交換を行い、連携を密にした。また、新たにチューター指導マニュアルをつくり、合わせてチューター業務の確認をした。今後もチューターの資質向上を更に図るよう努める。 2) 寮役員研修・学年別研修は順調に行うことができた。寮役員、部屋長、各系の育成に今後も努めていきたい。 3) 環境整備については中学男子寮と部活寮の改修を行い快適な生活環境となった。今後も環

	<p>について一層の改善をしていく。</p> <p>(5) 全寮のエアコンに対して、その使用についての考え方やルールを整備するとともに、寮生の健康指導を充実させる。</p>	<p>境の維持と点検を継続する。</p> <p>4) 保護者へのハガキは、毎週送ることができた。チューターも言葉を添えているので保護者の安心満足度も向上している。</p> <p>5) テスト週間中の教員による夜間学習を行った。学習係活動での学習時間調査も継続して行い、学習時間増加に繋がっている。中学寮では自習時間中、生徒を一か所に集めてチューターの監督による学習指導を時々行った。</p> <p>6) 部活寮においては、競技レベルの高い生徒の確保と育成をすることができるようになってきた。特に硬式野球部の寮生を安定的に確保することが出来るようになった。</p>
教務部	<p>(1) 新コース制度の確立に向けて、教育課程・年間行事計画・時間割作成等の面から助力する。</p> <p>(2) グローバル教育の推進に資するため、国際交流センターを校舎内に設置し、海外研修への助力や留学生との交流推進などの国際交流業務の効率化を図る。</p>	<p>1) 平成 29 年度からのコース制の本格実施（特進 SP コース開始）に向けて、29 年度以降の教育課程作成および 29 年度時間割作成を行った。</p> <p>2) 国際交流室（RIO）を 4 年生フロアに設置し、RIO を中心とした国際交流系の業務を始動した。また、海外からの留学生の活動にも RIO を活用した。</p>
進路指導部	<p>(1) 高校新設の進学コースと特進コースの進路指導プログラムを構築する。</p> <p>(2) 新しい大学入試制度に対する情報をきめ細かく発信し、その具体的な対応を検討する。</p> <p>(3) 大学模擬授業や出張講義などの進路行事を精選し、実りの多い有益なものにする。</p> <p>(4) チューター部と連携して寮生に対する一貫した進路指導体制を図る。</p>	<p>1) 4 年生進学コース全員に年 3 回「RISE」プログラムを実施し、国際理解や経済・経営、小論文概論など幅広い教養を身につける新たな機会とした。また、特進コース全員には年 2 回、小論文講座を開講した。これらはいずれも麗澤大学から講師を招聘し、高大連携を強めた。</p> <p>2) 教職員研修会などの機会を通じて講師を招聘し、新しい大学入試制度に対する有益な情報を得ることにより、今後の方策などを検討した。</p> <p>3) 麗澤大学による「大学出張講義」を計 4 回実施し、中学生も多数参加した。また 2・3 年生を対象とした名古屋大学教授による「プレミアム講座」を計 5 回開講した。</p> <p>4) 長期休暇中に開催される「教育研究セミナー」に 32 人が受講し、授業力の向上に努めた。また、進路関係システムの講習や実力テスト実施後の検討会、国公立大学判定会議などを行い、有効な受験指導を習得する機会とした。</p> <p>5) 平成 28 年度卒業生（174 人）の確定進路状況は以下のとおりである。</p>

◎平成 28 年度卒業生（174 人）の確定進路状況

<確定進路>

確定進路	人数	割合
国公立大学	25	14.4%
私立大学	119	68.4%
国公立短期大学	5	2.9%
専修・専門学校	9	5.2%
就職	4	2.3%
留学	0	
その他（予備校等）	12	6.9%
未定	0	
合計	174	

◎主な合格大学（ ）の数字は過年度生 内数

【国公立大学】31（1）人

岐阜大 [医・医]、福井大 [医・医]、大阪大、名古屋大 2、北海道大、筑波大、福井大（1）、北海道教育大、山梨大、信州大、静岡大 3、名古屋工業大 3、大阪教育大、鹿児島大、鹿屋体育大、首都大東京、長岡造形大、都留文科大、静岡文化芸大、愛知県立大、名古屋市立大 2、滋賀県立大、大阪府立大

【私立大学】

麗澤大 6、慶応大、立教大、上智大 3（3）、中央大 2（1）、青山学院大、法政大、東京理科大 5、明治学院大 2、専修大 3（2）、神田外国語大、玉川大 2、東海大、亜細亜大、順天堂大、成城大 4（2）、長野大 2、岐阜聖徳学園大、朝日大 3、南山大 11、名城大 10、愛知淑徳大 13、愛知大 5、中京大 3、中部大 9、金城学院大 4、愛知学院大 6、愛知工業大 4、椋山女学園大 4、名古屋外大 2、名古屋学芸大、藤田保健衛生大 3、同志社大 5、立命館大 10、佛教大、龍谷大、京都外大、関西大 3、関西外大 2、近畿大 4、関西学院大 2、武庫川女子大、立命館アジア大 など

生徒指導部

- (1) 教員間での生徒情報の共有と問題行動への適切で迅速な対応を図るために、生徒情報を全教員に速やかに周知し、情報を共有できる体制づくりを推進する。
- (2) 環境美化を推進するため、定期的な点検を実施するとともにアドバイスをを行う。
- (3) 生徒や教職員の交通安全意識の向上を図るために、担任部と連携し、外部講師による交通安全教室の実施を推進する。

- 1) 毎週 1 回各部署の責任者が集まり、生徒身上についての連絡報告会を開いた。その情報をまとめて全教員で共有し、統一した指導ができるよう努めた。
- 2) 交通安全意識の向上を目指し、自動車学校に依頼して 1 年生と 4 年生に対して交通安全教室を実施した。
- 3) 担任部と連携して 2 年生と 4 年生の女子生徒対象に外部講師による女性講話を実施した。
- 4) 生徒の動向の把握、問題行動の未然防止、早

	<p>(4) 社会的な問題にもなっている「情報モラル教育」について、外部講師による情報機器の使い方講座などを担任部と連携して検討し推進する。</p> <p>(5) 生徒のボランティア活動への積極的な参加を、年間を通して呼びかけて実施を推進する。</p>	<p>期発見、交通事故防止、マナーアップなどを目的として、校舎内、学園内、瑞浪駅、昼食時の食堂などを全教員当番制で巡回指導した。</p> <p>5) MS リーダーズ、MSJ リーダーズ活動を通じ、生徒がボランティア活動に積極的な参加した。</p>
<p>特活指導部</p>	<p>(1) 月 1 回の代議員会、生徒会委員会を充実させ、各クラスで活動内容の周知、徹底を推進する。また現在、生徒会執行部の行っているボランティア活動、あいさつ運動、食堂でのよびかけの内容を全生徒に理解してもらい、学校全体でバックアップしていく。</p> <p>(2) 中高共に実施している学期ごとの生徒会行事を一層充実させる。</p> <p>(3) 中高の部活動の主将には週 1 回の主将ファイル提出と学期 1 回の主将会議を通してリーダーシップを涵養してもらい、部活動の更なる充実を推し進める。また、彼らの意見を顧問にも伝え、問題意識の共有化を図る。</p> <p>(4) 特別強化指定部、強化指定部の支援体制を一層充実させ、競技力の高い生徒が集まるような環境づくりに向けて、更に人的・物的サポートを行っていく。</p>	<p>1) 生徒会活動では、「全力エール」をテーマに掲げ、頑張る仲間たちを応援し続けることができた。挨拶運動なども、挨拶だけではなくハイタッチをすることを取り入れて朝から笑顔が溢れる雰囲気を作りだした。また今年もボランティア活動を通して地域に貢献することができた。3 学期の生徒会行事も楽しく実施することができた。</p> <p>2) 各部活動とも熱心に活動していた。今年硬式野球部の活躍が素晴らしかった。バスケット部やバレー部も県大会に出場することができた。</p> <p>3) 剣道部男子が全国高校総体で団体準優勝、個人では 3 位入賞であった。女子剣道部も今年の全国選抜剣道大会でベスト 8 入賞を果たした。硬式野球部、高校男子テニス部、高校陸上部も東海総体、東海選抜出場を果たした。</p> <p>4) 平成 28 年度の部活動の成果は以下のとおりである。</p> <p>◎中学校（県大会 8 位以上のみ表示）</p> <p>■東海大会</p> <p>水泳部 女子個人（中体連東海大会出場）</p> <p>水泳部 女子リレー（中体連東海大会出場）</p> <p>陸上部 男子個人（中体連東海大会出場）</p> <p>テニス部 男子団体（東海地区中学テニス選手権大会出場）</p> <p>女子団体（東海地区中学テニス選手権大会出場）</p> <p>男子団体（東海地区中学新人テニス大会出場）</p> <p>女子団体（東海地区中学新人テニス大会出場）</p> <p>■県大会（8 位以上）</p> <p>水泳部 女子個人（中体連県大会 2～4 位 3 種目）</p> <p>卓球部 男子団体（全中岐阜県予選ベスト 8）</p>

◎高等学校（県大会 3 位以上のみ表示）

■全国大会

剣道部

- 男子団体（全国高校総合体育大会準優勝）
- 男子個人（全国高校総合体育大会 3 位）
- 女子個人（全国高校総合体育大会出場）
- 男子団体（国民総合体育大会出場）
- 女子団体（国民総合体育大会出場）
- 女子団体（全国都道府県女子剣道大会 準優勝）
- 女子団体（全国高校選抜大会 ベスト 8）

自然科学部

- 女子個人（全国聞き書き甲子園出場）

■東海大会

剣道部

- 男子団体（東海高校総合体育大会 優勝）
- 女子団体（東海高校総合体育大会 優勝）
- 男子個人（東海高校総合体育大会 優勝）
- 男子個人（東海高校総合体育大会 2～5 位）
- 女子個人（東海高校総合体育大会 優勝）
- 女子個人（東海高校総合体育大会 準優勝）
- 男子団体（東海高校選抜大会 ベスト 16）
- 女子団体（東海高校選抜大会 ベスト 8）

テニス部

- 男子団体（東海高校総合体育大会出場）
- 男子シングルス（東海高校総合体育大会出場）
- 男子ダブルス（東海高校総合体育大会出場）
- 男子シングルス（全日本ジュニア東海予選出場）
- 男子ダブルス（全日本ジュニア東海予選出場）
- 男子団体（全国選抜東海地区大会出場）
- 男子シングルス（東海毎日ジュニア選手権大会出場）
- 男子ダブルス（東海毎日ジュニア選手権大会出場）

野球部

- （秋季東海地区高等学校野球大会出場）

陸上部

- 男子個人（東海高校総合体育大会出場）
- 女子個人（東海高校総合体育大会出場）
- 男子個人（東海高校新人陸上大会出場）
- 女子個人（東海高校新人陸上大会出場）

水泳部

- 女子個人（東海高校総合水泳大会出場）

ゴルフ部

- 女子個人（中部ジュニア選手権岐阜予選 優勝）

		<p>■県大会 3 位以上</p> <p>剣道部男子、剣道部女子、テニス部男子、野球部、陸上部男子、弓道部女子、水泳部男子、水泳部女子、太鼓部</p>
<p>自学センター</p>	<p>(1) 教務システムの運用を一層簡便にし、業務の分業化を図るため、他部署と連携を取りながら運用方法や利用マニュアルなどの整備を更に進める。</p> <p>(2) 前回の更新から 5 年を経過した校内ネットワーク機器の更新を行い、学習環境及びネットワークセキュリティシステムの安定と向上を図る。</p> <p>(3) 電子黒板や e ラーニングシステムなどの機器やシステムの活用を積極的に検討し、学習効果を高めるための導入を推進する。</p> <p>(4) 生徒や教職員の貸出冊数が順調に伸び続けている図書の整備においては、書籍の種類や室内環境を一層充実させる。そして、高い志や幅広い知識を持った生徒の育成に繋がる活動を継続する。また、公共物としての書籍に対する意識の向上を促す。</p>	<p>1) 夏期休業期間を利用しネットワーク機器の更新と調整作業を行った。</p> <p>2) 第 1 体育館や第 2 グラウンドなどの放送設備を更新し利用環境が向上した。</p> <p>3) 定期考査などの処理手順の検討やマニュアルの作成を行い、他部署と連携を取りながら機器利用の向上に努めた。</p> <p>4) 積極的に電子黒板を利用した授業や進学講座が行われるなど、意識的に視聴覚機器を利用し効果的に活用する教員が増えた。普通教室への電子黒板の導入が望まれる状況となっている。</p> <p>5) 自学センター内図書スペースや自習スペースの環境整備に日々努めた。新入生に対する図書利用オリエンテーション、図書委員や教員によるお勧め本の紹介、授業での調べ学習への支援など積極的な活動を行っている。年間の貸出冊数が延べ 2 万冊を超えている。</p>
<p>研究部</p>	<p>(1) 伝統の日感謝の集い、寮内体験発表会、人権学習、ニューモラル学習などを企画し、これらの学習を通して生徒によりよい生き方を求める力を育てる。</p> <p>(2) 教職員研修において、本校の重点目標に即した外部講師を招聘し、教職員の資質の向上を図る。また、新規専任採用教員への研修計画も含め、初任者や近年採用者に対する研修制度の充実を図る。</p> <p>(3) 創立者生誕 150 年記念に際し、記念講演会を含めた伝統の日感謝の集いを実施し、創立者の業績を広く紹介し、啓発活動に努める。</p>	<p>1) 年間二回実施しているニューモラル学習では、平成 26 年度から始めたワークシートの活用をさらに進めて担任の創意工夫を促し、内容を充実させることができた。寮内体験発表会では生徒自らが自己の気付きを互いに発表し、それを「生徒体験発表集」にまとめて配布して相互啓発をすることができた。26 年度から学校行事として開催している「伝統の日感謝の集い」は白駒妃登美講師を招聘し、生徒にも印象の残る行事となった。</p> <p>2) 年間三回開催している教職員研修会では、進路指導、アンガーマネージメント、麗澤教育メソッドに関する講師を招聘し、教職員のスキルアップを図ることができた。また、初任者研修、初担任研修においては内容を精査し、より円滑な業務の推進をサポートすることができた。夏季には教職員に働きかけてレポートを回収し、研究紀要として製本・発行し教職員の間で相互啓発をすることができた。また、県教育センターの講習に中堅、若手の教員を派遣して、資質の向上を促すことができた。</p>
<p>広報部</p>	<p>(1) 広告媒体（グッズ）を充実させ、より効果的に宣伝できるようにする。</p>	<p>1) 学校の広報用パンフレットを 2 年連続で全面改定した。さらに良いものを創り上げることができた。寮パンフレットも作製し、募集活</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいパンフレットには詳細なコンテンツを盛り込んでいく。 ・雑誌広告を選定して、帰国子女も含めた宣伝・募集活動を推進する。 ・新たな広報グッズを開発し、学校・塾等の訪問に積極的に活用する。 <p>(2) 寮生を増やすために、寮教育の魅力・利点を整理して、広く情報を発信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寮教育プロジェクトの答申を参考に、改修後の高校寮を盛りこんだパンフレットを作成する。 ・卒業生、モラロジアンを中心に現在の寮教育の魅力アピールする。 <p>(3) 学校、塾、企業の訪問範囲を広げ、きめの細かい募集活動を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DM の配布範囲（岐阜地区や豊田市）を名古屋市などにも広げる。 ・海外に支社を持つ地元企業などへのPR を行って、広範囲から生徒の獲得をする。 <p>(4) 学校見学会をより充実させ、学校の魅力をしっかり発信していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明会の回数を増やすだけでなく、「もてなし」をキーワードとして、余裕を持った運営を行う。 	<p>動に幅がでた。また、新しい広報誌「R-style」を発行し、評判を得た。</p> <p>2) 学校見学会は、6月を皮切りに中学校対象を3回、高校対象を4回行った。体験入学も中高を分けて行った。生徒に説明させたり、会場を工夫したり、内容を精査したりと昨年よりも質を高くできた。</p> <p>3) 東濃地区を中心に愛知県、長野県に至るまで塾訪問を行い、パイプ作りを兼ね積極的な募集活動を行った。当該地域の見学者を増やすことができた。</p> <p>4) 寮生確保のために麗澤会を通じて、ニュース紙などを適齢卒業生に送付した。また、寮のある学校説明会、モラロジ地方責任者研修会などの機会に寮の魅力アピールした。</p> <p>5) アジア圏に募集活動を行い、少数ではあるが、見学会につなげることができた。</p> <p>6) 学校のホームページは年間を通じてよく更新をした。瑞浪駅前の垂れ幕や広報用印刷物などの他の広告媒体も有効に活用できた。</p>
--	---	--

VI. 中期計画と評価

所管部	事業計画	評価
<p>校長・教頭 事務部長</p>	<p>1. 生徒の安定的確保と教育活動収支の改善</p> <p>(1) 募集目標数の達成</p> <p>平成21年度の779人をピークに3年間でおおよそ100人減となった生徒数は、平成25年度に減少が止まり、27年度は対25年度比で30人増となった。中期計画最終年の平成29年4月には募集目標数の765人（中学生225人、高校生540人）以上の生徒数を確保し、教育活動収支の一層の改善に努める。</p> <p>(2) 広報力の強化</p> <p>平成26年度に委託をした三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社による調査と提案を参考に、引き続き効率的なマーケティング・市場開拓を行っていく。特に寮生の募集については、麗澤会員への</p>	<p>1) 募集目標数の達成：中期目標において、平成28年度4月の在籍生徒数を740人（中学生240人、高校生500人）と設定して広報活動を行ってきた結果、755人（中学生238人、高校生517人）の生徒数を確保することができた。中期計画最終年の平成29年4月の目標を765人（平成24年度比85人増）と設定しているため、目標達成に向けて一層努力したい。</p> <p>2) 広報力の強化：コアネット教育総合研究所との協力関係のもとで、専任の広報担当者を1人雇用して近隣の塾に対する広報を強化した。塾訪問活動の効果は、受験者数の増加や来校者の増加など、特に中学入試において顕著にあらわれたと思われる。</p>

	<p>広報や、公益財団法人モラロジー研究所の協力の下で、同研究所維持員・地方責任者への情報発信にも努めていく。</p>	
<p>校長・教頭 事務部長</p>	<p>2. 教育の充実</p> <p>(1) 寮の収容定員の充足</p> <p>平成 27 年度の寮生数は 393 人（中学生 101 人、高校生 292 人）であったが、目標である 430 人（中学生 110 人、高校生 320 人）の確保に向けて全国的な広報活動を行う。特に兄弟姉妹・卒業生対象の寮費減免制度なども活用して寮生の確保に努め、麗澤教育の充実を図る。</p> <p>(2) 寮指導体制の改革</p> <p>寮を担当するチューターの勤務体制の改善を図り、適正な勤務時間の確立に向けて引き続き検討を重ねる。また、本校の教育理念を体現した指導方法を整えるために、指導マニュアルの作成を行う。</p> <p>(3) 中高一貫体制の構築と進学実績の向上</p> <p>学力の向上と進学実績の向上を目指して中高一貫教育体制（知徳コース）を整え、英語や数学などの教科の先取り学習と習熟度学習を展開する。また、高校入学生には「特進コース」と「進学コース」を設置して、学習指導の一層の充実を目指す。</p> <p>(4) グローバル人材の育成</p> <p>ホームルームや総合学習の時間などを活用して、日本人としての誇りと自信を持ったグローバルな思考のできる人材の育成に努める。また、3 年生の海外研修旅行や 5 年生の台湾修学旅行などの海外交流プログラムの充実と改善を推進する。</p>	<p>1) 寮の収容定員の充足：中期計画最終年の目標である 430 人（中学生 110 人、高校生 320 人）の確保に向けて広報活動を行ってきた結果、平成 28 年度 4 月の寮生数は 425 人（中学生 109 人、316 人）となったので、次年度は目標を達成できるように努力したい。</p> <p>2) 寮指導体制の改革：麗澤教育の理念を体現した指導マニュアルの整備については不十分であったので、次年度以降も推進していきたい。</p> <p>3) 中高一貫体制の構築：中高一貫教育体制のカリキュラム上の整備については、プロジェクトチームによって何度も検討を重ね、先取り科目の設定も含めてカリキュラムをほぼ完成をさせることができた。</p> <p>4) グローバル人材の育成：3 年生のオーストラリア研修や 5 年生の台湾修学旅行などの海外交流プログラムについて検討を重ね、旅行業者の選定も含めておおよその計画を作成することができた。</p>

Ⅶ. 学校評価アンケート調査集計結果

本校ホームページ公開資料参照

以 上